

# 主権者教育の基盤として人のつながりを学ぶ社会科授業 －共同体概念と関係価値に着目して－

新谷 和幸

Social studies class to learn human connections as the basis of sovereign education  
: Focusing on the concept of community and the value of relationships

Kazuyuki NIIYA

本稿の目的は、主権者教育の基盤として小学校社会科で社会構造の根幹となる共同体概念を獲得・活用し、その意味と価値について学ぶ必要性を明示することである。人々の社会範疇が多様化しそのつながりが変化する中、民主主義社会のあり方が問われている。子どもたちが主権者・社会形成者として資質・能力を育み、その一員として社会問題を解決していく上で、人のつながりを介して行われる社会構造の意味や価値を捉えておくことが必要であった。そこで本稿では、共同体概念やそれに内在する関係価値に着目し、小学校社会科における主権者教育の基盤となる学習過程の構築、授業モデルの開発・実践を通して、児童の変容から本論の有効性を示した。

主権者教育 共同体 関係価値 概念 小学校社会科

## 1. はじめに

高度情報化や物流の発展によって、人やモノ、情報が地球規模で行き交う世の中となって久しい。社会のグローバル化は、「我が国」や「世界」の社会システムに変革をもたらし、私たちの社会を捉える見方・考え方を広げた。また、既存の規範と異なる価値観によって、これまで「共同体」を構成してきた人々のつながりが変わり、様々な社会問題も生じている。

では、私たちが構成する最も身近で小さな共同体である「家族」はどうであろうか。

グローバル化による物質的豊かさの享受、新自由主義による個人の利益や効率を最大化する価値観などの影響により、私たちは家族に内在する機能を外部化し家族内の個人化を進展させた<sup>1)</sup>。それに伴い、単身世帯の増大など家族形態が多様化・個族化し、少子化や孤独死といった現象・問題が生じる要因となっている。また、「地域」でも個人化に伴う公共意識の低下など、共同体の存続に関わる問題が生じている。これは、人々が主権者として話し合いを通して意思決定を行う民主主義社会の根幹に関わる問題とも言えよう。

内山は、民主主義とは「小さな規模でないと機能しない仕組み」と指摘し、社会範疇が広がるほど人々の結び合いは不明瞭になり、選挙権があるから国民権は成立するという論法が主権の空洞化をもたらし、民主主義という欠陥のある制度を顕在化させるとした<sup>2)</sup>。これからの社会科ではグローバル化する社会の様相を踏まえながら、民主主義社会の構造やそのよさだけでなく、難しさや欠点も含み込んで学ぶ必要があるだろう。また、私たちの主権は人々の結び合いや関係性の中にあり、そのつながりによって共同体をつくり広げ、多様で多層な共同体の存在を可能とする<sup>3)</sup>。だが、既存の枠を超えて人々のつながりが促進する反面、武力集団が国家を超えて支配する現状もある。共同体を考える上で「人々のつながり」に着目し、つながり方やつながる意味・価値を考えていくことが重要と言える。

選挙権年齢引き下げ以降、模擬選挙など「主権者教育」が盛んに行われている。しかし、主権者である児童自身が「共同体の一員としての自覚」をもっていない限り、社会問題を解決する行動はおろか、社会問題の存在すら気づくことも難しい。主権者としての市民的資質を育むためにも、まず既存の小さな範疇から民主主義社会の構造を「人のつながり」の観点から捉え、様々な社会問題を通して大きな社会の結びや小さな社会への影響を捉える。このような学習が、小学校段階における主権者教育の基盤として必要ではなかろうか。

そこで本稿では、その必要性を実証するために、以下の手順を踏まえ述べていく。

まず主権者教育に関する社会科教育学の先行研究を分析した後、主権者教育の基盤となる小学校社会科で学ぶべき概念として共同体概念に着目し、社会諸科学の知見を踏まえ検討することで、人々がつながる意味や価値を学ぶ必要性を明らかにしていく。

次に、人のつながりを含み込む共同体概念の意味や価値を学ぶための方途や学習過程について、社会科教育学の研究成果を踏まえ分析・検討し、授業モデルを示す。

最後に、授業実践の記録や児童の記述内容を基に、児童が主権者教育の基盤として、共同体概念を通して人のつながりの意味や価値を捉えることができたか、検証していく。

## 2. 主権者教育に関する社会科教育学の先行研究

社会科では、その目標が市民的資質の育成をめざすことから、主権者教育との親和性が高い教科である。これまで社会科教育学研究では、社会問題学習を中心に市民的資質を育む学習論や授業開発が、選挙権年齢に近い中等を中心に行われてきた<sup>4)</sup>。近年、初等でも積極的に学習論や授業の開発が行われている<sup>5)</sup>。しかしその目標となる市民的資質には多様な捉え方があるため、それぞれの学習論や授業でめざす市民的資質のあり方も異なる。

土肥は、学習で迫る社会問題の捉え方やそれに関わる社会認識、めざす市民的資質の違いを基に、社会問題学習の類型化を図っている<sup>6)</sup>。この中で、感情や意志力育成の観点から、市民的資質の違いを示す学習区分として「実践的活動による学習」と「批判的研究としての学習」を設けている。このような違いは社会科教育に限らず、主権者教育に対する公的な捉え方にも見られる<sup>7)</sup>。

水山らは、「ものごとを批判的に見ることと主体的に参加することは、政治的な内容を扱う主権者教育においてはなかなか両立し難い」とした<sup>8)</sup>。その中で、小学校社会科では民主主義の批判的精神に主眼が置かれるが、児童だからこそ「作る民主主義」を「身近な小さな家庭や学級から捉える」ことの必要性も示している。また、従来の主権者教育では、個人主義・自由主義の理念に立脚し政治教育を構想するが故、「選挙」という間接民主主義の手法を重視してきたが、政治は家庭や学校にもあるからこそ、直接民主主義的内容が重視されてよいとしている。水山らの見解は民主主義社会は小さな規模でしか成立しないとする先の内山の主張とも関連する。家族や地域といった共同体は人々のつながりが直接的で見えやすい。小学校社会科の主権者教育で扱う社会範疇・内容としての有効性が窺える。

他方、唐木は、社会科に主権者教育を導入する際、社会科の目標にある市民的資質に着目し、これを子どもの論理の視点から政治的リテラシーと捉え直した<sup>9)</sup>。その育成には、政治的論争問題を取り上げ「争点を知る」ことが重要であり、小学校社会科で「争点を知る学習」を行う必要性を示唆している。また、最適な題材として「政策」を挙げ、政治的リテラシーを働かせ争点を知る上で「批判的精神」と「価値」が重要とした。特に「価値」は、概念によって認識し思考する故、権力や自由などの基本的な概念を教師がもつことで、政治の問題や争点を整理・関連付ける際の方途となると示した。唐木の見解から、政治リテラシーを育む上で、社会的な見方・考え方としての概念の重要性や、小学

校段階で社会問題の鍵となる認識を児童に育む必要性が窺える。

さらに菊池は、小学校社会科における政治学習の基盤として、政策による社会的課題解決方法の合理的意思決定を行う前に、政治に関与し解決してもよいという児童の認識や判断力の育成が必要とした。特に中学年では、つながりの中に自分も含めて捉える考え方が必要と述べている<sup>10)</sup>。

以上の見解から、主権者教育における小学校社会科授業では、その基盤として児童自らが主権者・社会形成者であることを自覚し、社会問題が生じる状況を捉えることが重要である。そのためには身近な社会を事例に、人のつながりに関連する概念を用い、その意義や価値を認識することが必要と言える。該当する概念には、「信頼」概念や「社会関係資本（ソーシャル・キャピタル）」概念などいくつか考えられる。概念選定においては、主権者教育の基盤として社会科導入期の小学3年生に実施する点、身近な社会から同心円拡大的に学習する現行小学校社会科カリキュラムの現状、グローバル化によって地域社会レベルを超えて国内や世界の範疇で共同体が形成されている現実社会の状況を考慮し、本稿では社会構造や社会問題に関連する「人のつながり」を知る上で「共同体」概念に着目することにした<sup>11)</sup>。では、共同体とはどのような概念なのか、社会諸科学の成果を踏まえ検討してみよう。

### 3. 主権者教育の基盤として学ぶ共同体概念の検討

#### 3-1 コミュニティとしての共同体概念のあり方

「共同体」とは、経済史や社会学で用いられる概念であり、一般的に家族や地域など、血縁や地縁で結びつく人々の集まりを示す。社会学では「共同体」を「コミュニティ」と捉え、地域性・共同性という二つの要件を中心に構成される社会としている<sup>12)</sup>。このうち共同性は、拠り所としての心情的な共同性と、利害関係による機能的な共同性の2つの要素がある。マッキーヴァーは心情的な共同性として地域共同的社会感情・関心に支えられる生活領域を「コミュニティ」、特定の関心を追求するための機能的共同性による組織体を「アソシエーション」として概念を社会構造的に類型化した(図1)。コミュニティは、人々の相互に意志し関連し合う心の活動でつくられる。その成立条件としてマッキーヴァーはわれわれ意識・役割意識・依存意識の3要素からなる「コミュニティ感情」を示し、構成員の共同利害関心を掻き立てるものとした。また、この共同利害関心には、広範的・包括的な特徴があり、その広がりにおいて、場所や手段からなる複合統一体への愛着が現れるとした。杉原は、この愛着によってコミュニティが個人の利害を超えた存在にもなるのではないかと言及している<sup>13)</sup>。

マッキーヴァーや杉原の「共同体(コミュニティ)」に関する見解から、共同体とはコミュニティ感情によって「人々が相互に意志をもってつながる」ものであり、愛着によって広がる集合体と言える。主権が人々の結び合いや関係性の中にあり、そのつながりによって共同体がつけられるとした、内山の見解との関連性が見て取れる。このような人のつながりを、現代の社会問題群の解決を図るための、人々が共有可能な価値(関係価値)としたのが阿部である。次に共同体概念に内在する関係価値について見てみよう。

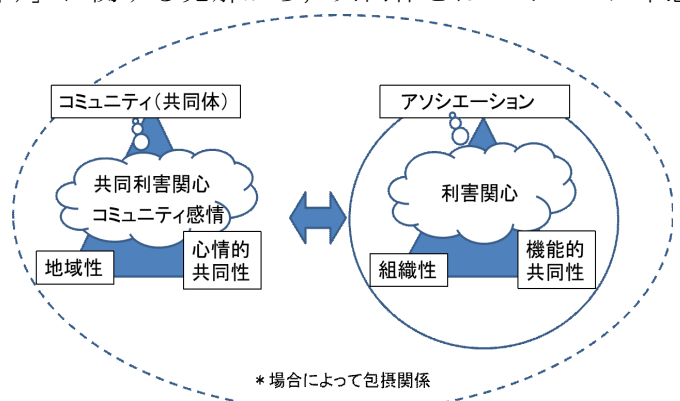


図1. コミュニティとアソシエーション (筆者作成)

#### 3-2 共同体概念に内在する関係価値

阿部は、地球環境問題などの社会問題が生じたのは、市場や経済などの近代的価値の重視、快適さ

・便利さの追求によって、人々の関係価値が喪失したことだとした<sup>14)</sup>。複雑化する社会問題の解決には、事実命題を問う科学だけでなく価値命題を問う科学も必要であり、その中で必要な説明概念として「関係価値」を提唱した。また、「関係価値」の下、科学者だけでなく問題に関連する人々がつながり協働する必要性も説いている<sup>15)</sup>。阿部の見解からも、社会科教育学の先行研究との共通点として、社会問題の背景にある価値を捉え判断する必要性が窺える。主権者教育の基盤形成として、小学校社会科で児童が捉えるべき価値を考えた場合、「関係価値」は社会問題や共同体の根幹に関わる価値として不可欠であろう。そして、それを認識し思考するための概念こそ、共同体概念となろう。

しかし阿部は、「関係価値」を人々がつながる豊かさの価値にのみ言及するにすぎない。社会問題を通して共同体に内在する「人のつながり」の価値を捉えるには、つながることでの負の関係性(反価値)も踏まえ、共同体の意味や重要性を認識する必要がある。では、人のつながりとして共同体概念の意味や価値を捉えるにはどのような学習方法を行えばよいか、社会科教育学研究の成果を基に検討する。

#### 4. 共同体概念の意味や価値に迫る学習方法の検討

##### 4-1 社会科教育学研究の成果を踏まえた学習方法の分析

概念の獲得を通して社会問題に迫る学習の代表的な授業構成原理としては、岩田の概念探究過程・価値分析過程がある<sup>16)</sup>。ここでは、概念探究過程で学習材による問題解決的な学習を基に社会諸科学の成果につながる概念的・説明的知識を獲得した後、価値分析過程で獲得概念を活用しながら社会論争問題を通して価値判断・意志決定を行う。

しかしこの学習では、概念探究過程を基盤とするため、価値分析過程では特定の社会問題よる価値分析・判断に限定される。また、概念探究過程での知識の一般化も、概念の命題による推論となるため、多くの対象事例に適用させて一般化するのは難しい。児童が共同体概念を獲得し、様々な社会範疇に適応可能な概念として認識する上で課題が残る。

そこで本稿では、もう1つの社会科教育学研究の成果として、カテゴリー化という認知機能を活用し、概念の名辞(カテゴリー)を探究する「概念カテゴリー化学習」の学習方法理論に着目した<sup>17)</sup>。この学習では、問題解決的な学習を通して学習材の意味内容を獲得した後、カテゴリーの階層性に着目し、学習材の意味内容と関連する具体概念を起点にカテゴリー化を繰り返すことで、最終的に包摂したカテゴリーを社会で重要な概念の名辞として捉える(概念のカテゴリー化)。その意味内容も社会生活を送る上で必要な知識として認識する(図2)。「概念カテゴリー化学習」であれば、人のつながりを

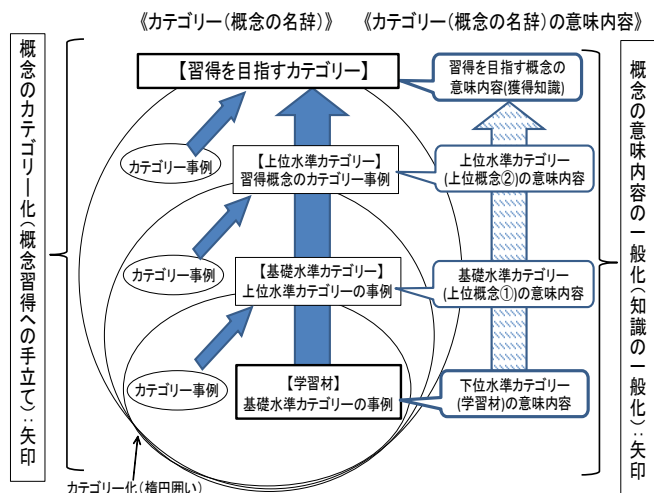


図2. 概念のカテゴリー化の構造図

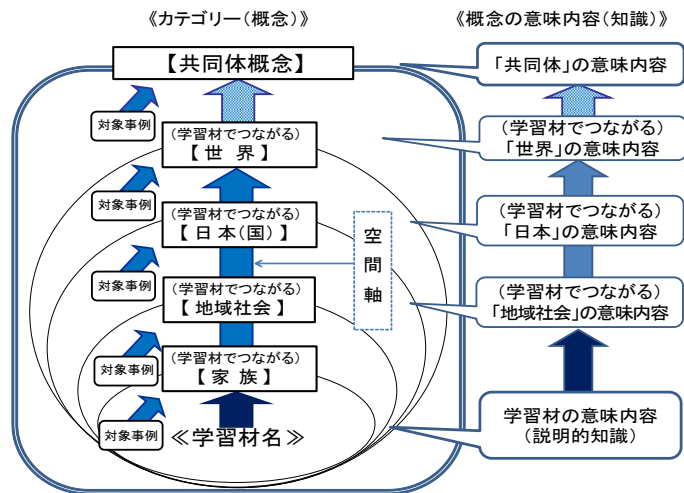


図3. 共同体概念の獲得をめざすカテゴリー構造(筆者作成)

基軸とした学習材の意味内容（説明的知識）を、カテゴリーの階層性を生かし学習材名を起点に共同体の最小単位の家族から地域、日本、世界と空間軸に沿って適用することで、それを様々な社会範疇に適応可能な知識として認識することができる（図3）。また、獲得概念を活用して、様々な範疇の社会問題を検討することによって、共同体概念に内在する人のつながる価値を捉えることも、理論的に可能である。

#### 4-2 共同体概念の意味や価値に迫る学習過程

これまでの検討内容を踏まえ、小学校社会科の主権者教育の基盤として共同体概念の意味や価値に迫る授業モデルを構築していく上で、3段階からなる学習過程を図4に示した。

第1段階では、児童にとって身近で小さな共同体(例：家族)に関する問題解決的な学習を行う。ここでは、小さな共同体における学習材の「人のつながり」に関連する単元を貫く学習課題を設定し、その追究・解決を通して学習材の意味内容の獲得をめざす。

第2段階では、獲得した学習材の意味内容を基に、概念カテゴリー化学習の学習方法理論を活用して学習材名から共同体概念を導き出し、その意味内容を認識する。まず、獲得した学習材の意味内容に含まれる人のつながりに着目し、学習材名から小さな共同体(家族)に視点転換を図ることで、小さな共同体(家族)の意味内容として再構成する。“なぜ家族(家族の〇〇)は、学習材名を～するの？”といった発問形式を用いて行う。次に、小さな共同体(家族)を起点に、家族→地域→国→世界の順に範疇を広げ、最終的に共同体概念を導き出す。ここでは“これって〇〇(家族)だけ”といった発問形式や資料提示を基に行う。これにより共同体概念だけでなく、人のつながりを基軸とした共同体概念の意味内容の獲得も行う。

第3段階では、獲得概念を活用して共同体に生じた(生じている)複数の社会問題を「つながりの観点」から考えることで、そこに内在する関係価値を捉える。ここでのねらいは2つある。1つは、共同体に生じる社会問題を反証事例として取り上げ、獲得した共同体概念を批判的に検討することで児童の認識を開くことである。もう1つは、社会問題が顕在化する要因に迫ることで、共同体の関係価値をその反価値も含めて捉え、児童の共同体概念の認識を広げ深めることである。

また、ここでは規模の異なる共同体で生じる社会問題を複数扱う。これにより世界レベルの社会問題でも、人や国同士のつながりだけでなく、国内や地域、家庭といった共同体へ(から)の影響など、様々な範疇の共同体との関連や影響も考えて共同体概念の関係価値を捉える。では、この学習過程を踏まえ、どんな学習材を選定し、授業構成すればよいだらうか。授業モデルとして開発・実践した第3学年単元「カーブは家族!？」を見ていこう。

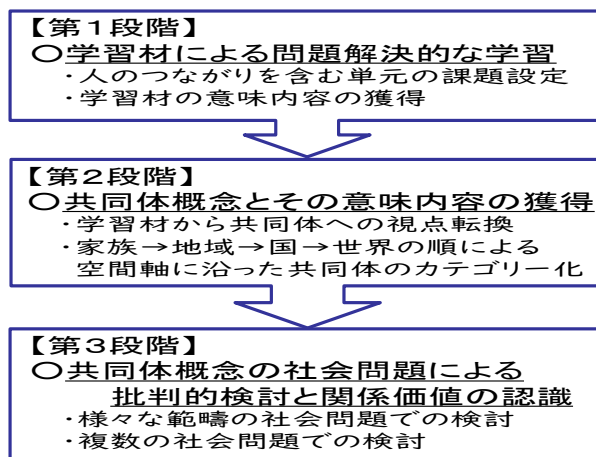


図4. 共同体の意味や価値を学ぶ学習過程（筆者作成）

### 5. 単元「カーブは家族!？」の授業構成

#### 5-1 学習材の設定と共同体概念との関連性

本単元では、学習材としてプロ野球球団「広島東洋カーブ（以下、カーブ）」を設定した<sup>18)</sup>。カーブは、行政や企業、市民が出資し市民球団として1950年広島に誕生した。経営難から解団や合併の危機

に見舞われたが、企業の資金援助や市民の救援金・募金活動などで乗り切り現在に至る。創設から今日に至るまでの歴史的過程や支援体制から、カープは広島という共同体の公共財として位置づけられている<sup>19)</sup>。カープ誕生の背景には、原子爆弾で家族を失い、原爆症の不安を抱え生きる市民の実情がある。このようにカープは、市民の精神的支えや広島の公共財として、市民やその家族のつながりの中で支援され続けてきた。これは先に示すマッキーヴァーの共同体の意味内容や成立条件と合致する。

広島(市民、その家族)には、原爆への「地域共同体的社会感情」があり、その精神的慰安や広島の公共財としてのカープへの「われわれ意識」「役割意識」「依存意識」がある。それによって「コミュニティ感情」が掻き立てられ、個人の利害を超えて球団を支援する関係性が生じ球団への「愛着」と化している。さらに、その支援の輪や愛着も地域を超えて、日本、世界へと広がっている。これはカープに限らず、原爆の恐ろしさや平和を希求する思いも同様である。

このようにカープは、広島の児童が共同体概念を学ぶのに有効な学習材と言える。授業開発・実践した年はカープの優勝、オバマ氏の広島訪問があり、最適と捉えた。また、学習対象の小学3年生の児童が理解しやすいよう、共同体の意味内容を「人々が互いに意志をもちつながりあってつくる社会」とした。コミュニティの形成条件などは、単元を通して児童が感じながら育むことにした。

では、学習材「カープ」からどのように共同体概念を導くのか見ていく。

## 5-2 学習材「カープ」から「共同体」を獲得・活用していくための方途

本単元では、学習材「カープ」を起点に共同体概念を導く上で、概念カテゴリー化学習の具体一抽象型の手法を活用する。ここでは、ある具体概念を起点に“これって〇〇(概念・学習材名)だけ?”という発問や対象事例の資料提示等を繰り返すことにより、最終的に獲得をめざす抽象概念を導き出す<sup>20)</sup>。具体的な手立てを以下に述べる(図5)。

まず前段階として、単元を貫く学習課題「なぜ広島の人々は、子どもも、大人も、お年寄りもカープを応援するのだろうか?」の追究により、学習材「カープ」の意味内容として「広島カープは、広島の人々(行政・企業・市民)の協力によって守られてきた広島の宝(公共財)である。」ことを捉える<sup>21)</sup>。

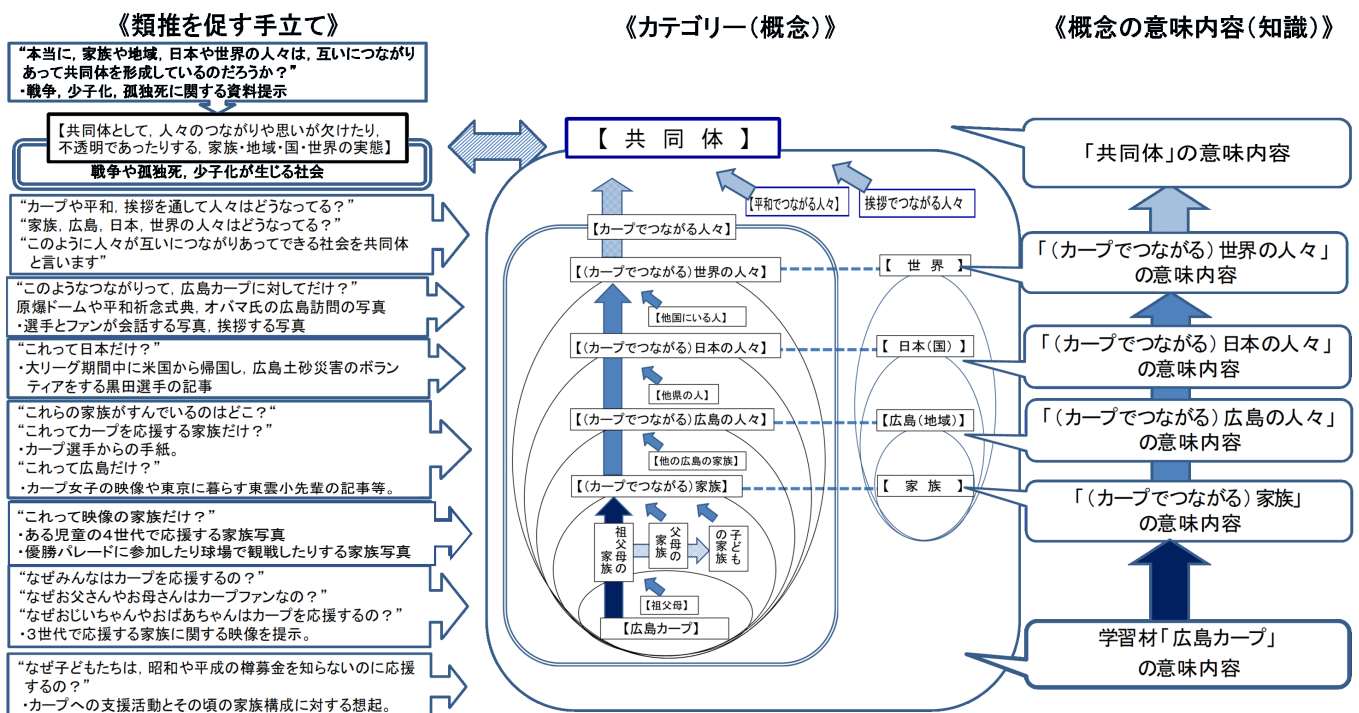


図5. 学習材から共同体概念を獲得・活用するための手立てとカテゴリー構造(筆者作成)

だが、本単元では公共財概念の獲得をめざしていない。そこで、学習材「カープ」の意味内容から人のつながりに着目させるため、“なぜみんな(子ども世代)はカープを応援するの?”など、カープを支援する理由を「家族」の視点から世代ごと遡りながら追究し、祖父母世代のカープに対する心の支えとして家族のように思い支援する心情や当時の家族構成を想起させる。その後、それを起点に家族のつながりの中で父母世代や子ども世代がカープを支援(応援)する様子を構造図や映像を用いて捉えることで、学習材の意味内容をカープを支援する「家族」の意味内容へと再構築する。

次に、カープを通してつながる「家族」から、概念のカテゴリー化の手法を用い、共同体概念を導き出す。最初に“これって映像の家族だけ?”と発問し、カープ観戦する児童などの家族写真の提示によって、カープを媒介とした家族同士がつながりを確認する。続いて“これらの家族が住んでいるのはどこ?”と問い、それを「広島」の人々のつながりとして捉える。また、“これってカープを応援する家族だけ?”と問い、市民である選手とのつながりも押さえる。その後、“これって広島だけ?”, “日本だけ?”と発問し、他県のカープ女子の映像や広島の災害支援を行う大リーグ選手の記事などを基に、カープを支援する「日本」や「世界」の人々のつながりを捉える。さらに、“このようなつながりはカープだけ?”と発問し、平和記念式典や人々が挨拶する写真を提示することで平和への思いや挨拶を基に一般化を図る。最終的に概念「共同体」を適用することで、その意味内容も捉えていく。

他方、概念活用に向かう動機づけとして“本当に互いにつながりあって共同体を形成しているのだろうか?”と発問し批判的に検討できるようにする。その後、「戦争(第二次世界大戦)」「孤独死」「少子化」といった様々な範疇の社会問題を段階的に応じて提示し、共同体概念のつながりに着目して吟味・検討を図ることで関係価値を捉え、児童の共同体概念に対する認識を深め重要性も高めていく。

### 5-3 単元「カープは家族!?’の学習指導計画

本単元は、三次14時間で授業構成した<sup>22)</sup>。学習指導計画を表1に示す。

第一次では、児童のカープに対するイメージを捉え、優勝パレードの写真を契機に単元を貫く学習課題を設定する。まず、単元名「カープは○○!?’」に当てはまる言葉を意見交流し、児童が捉えるカープの特徴を把握する。その後、“君たちにとってカープって何?”と発問し、現時点での児童とカープの関係性を確かめる。最後に、カープの優勝パレードの写真を提示し、応援する人々に着目させることで単元を貫く課題を設定し予想を行う。

第二次では、単元を貫く学習課題の追究を通して、広島市民とカープの歴史的な関係性を捉えさせる。具体的には、カープが誕生した頃の広島の様子や人々の状況、カープ誕生の経緯や解散の危機を迎えた理由、そのような状況下で球団が今日まで存続できた要因を、資料や写真、映像等を基に探り、カープが広島市民の「公共財」として、広島の人々によって守り支援されている点を確認していく。

第三次では、単元を貫く学習課題の再吟味・解決を通して学習材の意味内容を獲得し、前章の概念のカテゴリー化を基に学習材「広島カープ」から「共同体」概念を導き出し、共同体概念やその意味内容を獲得させる。その後、概念を活用し「戦争(第二次世界大戦)」、「孤独死」、「少子化」といった様々な範疇の社会問題について吟味・検討を図る。社会問題を通して共同体概念を批判的に捉えたり、つながる意味や価値(関係価値)を考えたりすることで、児童が概念の認識を広げ深めるだけでなく、主権者・社会形成者としての自らの立場を意識し、社会問題を自分事として捉えられるようにする。

では、このような学習指導計画を基に授業を行えば、児童は主権者教育の基盤として共同体概念の意味や価値を捉え、主権者・社会形成者としての意識を育むことができるのか、授業実践の記録や記述内容を基に、第三次(第2・3段階)の児童の変容を見てみよう<sup>23)</sup>。

表1. 単元「カーブは家族!？」の学習指導計画

<p>《単元目標》</p> <p>1. 広島カーブの支援を通してつながる広島の人々や地域に関心をもち、家族や社会を形成・維持していく上で必要な要素を主体的に調べるとともに、共同体を構成する一員として身近な家族や社会のあり方について考える態度を養う。</p> <p>2. 老若男女問わず広島市民が広島カーブを支援し応援する理由について、カーブが創設され現在に至るまでの歴史的背景やカーブに対する人々の立場・心情を考え、家族や地域社会といった共同体の観点を踏まえ判断する。人々のつながりの希薄化によって生じる社会問題に対する自分なりの考えを表現することができるようにする。</p> <p>3. 新聞記事や写真、映像などの資料から広島カーブに対する人々の心情や関わり、カーブを通してつながる家族や地域の人々の存在を捉えることができるようにする。</p> <p>4. カーブを支援する広島の人々の関わりを通して、私たちの所属する家庭や地域といった共同体がその構成員のつながりによって形成され、維持・発展している点、その希薄化によって社会問題が生じている点、を理解できるようにする。</p>	
--	--

段階	次(時)	時	めあてとなる問い	達成規準	達成規準を満たすための手立て		
第一段階	一(1)	1	カーブは○○!?	<ul style="list-style-type: none"> <li>君たちにとって、カーブって何?</li> <li>カーブに対する印象を話し合って広島カーブの特徴をとらえる、パレードの写真を基に単元を貫く学習課題を設定し予想を立てることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元名に入る言葉を、理由を踏まえ想起させ、それが自分たちが考えるカーブの特徴である点を説明する。</li> <li>本時の課題を問い、根拠を示しながらクラスで話し合うよう促す。</li> <li>優勝パレードの写真から単元を貫く学習課題を設定し予想させる。</li> </ul>		
			なぜ広島の人々は子どもも、大人も、お年寄りもカーブを応援するのだろうか?	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や映像を基に、原爆が投下された広島カーブができる前のまちの様子を捉え、他の爆弾と比較しながら原爆の恐ろしさについて理解することができる。</li> <li>原爆投下直後と5年後の広島を比較し、まちの様子や人々の生活について話し合い、当時の人々の心情について考えることができる。</li> <li>資料を通して、原爆投下による市民の心の支えとなるよう広島カーブが作られた点を捉え、食べ物ではなくあえて球団を創った理由について考えることができる。</li> <li>広島カーブは原爆投下後、資金のない市民球団として創設されたため、有望な選手を集めたり、物的支援が得たりすることができなかった点を理解できる。</li> <li>資料を基に、広島カーブが解散の危機を迎えながらも、カーブをわが子のように思い、梅募金などで支援する市民や、それに応えよう奮闘する選手との協力によって、危機を免れた点を理解することができる。</li> <li>資料を通して、広島の人々や企業が広島カーブを維持・存続させるために、外国人選手を集めるための寄付を行ったり、ナイター設備のある球場を建設したりした点を理解できる。</li> <li>写真を基に広島カーブの創設から初優勝までの出来事を振り返りながら、初優勝した時の市民の心情を自分なりに根拠を示しながら考えることができる。</li> <li>資料から平成の梅募金が行われた事実を捉え、昭和と平成の梅募金を比較しながら、新球場の建設を行った理由について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く学習課題の予想について話し合う場を設ける。</li> <li>資料を基に、カーブが誕生したころの様子を話し合わせる。</li> <li>映像を基に原爆の特徴をとらえ他の爆弾と異なる点を確認する。</li> <li>原爆投下時の様子をとらえ、原爆の特徴をふりかえるよう促す。</li> <li>原爆の被害にあった人々の心情を話し合う場を設ける。</li> <li>原爆当時と5年後の町の様子の写真を比較しながら、当時の人々の生活について考えるよう促す。</li> <li>写真を基に、原爆投下5年後のまちや人々の様子を振り返る。</li> <li>創設趣意書を基にプロ野球球団が広島に作られた理由を想起する。</li> <li>当時の日本の状況や市民の生活・心情を踏まえながら、食べ物の配布ではなくプロ野球球団を創った理由について考えるよう促す。</li> <li>広島カーブはだれがいつどんな理由で創設したのか確認する。</li> <li>資料を基に、カーブが最下位になった点を確認する。</li> <li>カーブが最下位になった理由について話し合う場を設ける。</li> <li>映像を通して、カーブ球団や選手の実態、生活について確認する。</li> <li>1950年と1951年の勝敗表を提示し読み取れる情報を話し合う。</li> <li>1951年に試合数が少ない理由について考える場を設ける。</li> <li>資料を基にカーブが解散危機を迎え、乗り越えた事実を確認する。</li> <li>資料を基に、カーブが解散の危機を乗り越えた理由や当時の市民の心情について考えるよう促す。</li> <li>本時の課題に対する予想について考え、話し合うよう促す。</li> <li>1953年前後の選手オーダーの資料を提示し、気づきを話し合う。</li> <li>1957年前後の球場の写真を提示し、その変化について話し合う。</li> <li>外国人選手の獲得やナイター設備が完備された理由について考え、市民や地元企業が球団強化策として資金援助した点を確認する。</li> <li>資料を基に、創設から優勝まで25年間かかった点を確認する。</li> <li>写真を並び替え、写真の内容について振り返る場を設定する。</li> <li>カーブが優勝できた背景を考えながら、当時の人々の心情について考えるよう促す。</li> <li>平成の梅募金が行われた理由を予想し、話し合う場を設ける。</li> <li>2004年以降のカーブの勝敗表や入場者数の資料、球団再編の新聞記事を基にカーブの球団存続の危機が再燃した点を確認する。</li> <li>昭和と平成の梅募金の共通点、相違点を確認する。</li> <li>新球場建設の梅募金と球団の存続の関係性を考える場を設ける。</li> <li>カーブ創設から現在までの出来事を写真で振り返る場を設定する。</li> <li>単元を貫く学習課題を予想し、話し合いを通して再吟味するよう促す。</li> <li>梅募金を知らない子どもが応援する理由を考えるよう促す。</li> <li>カーブが創設され昭和の梅募金が行われた祖父母世代のカーブに対する心情について振り返り、家族の視点で課題追究するよう促す。</li> <li>概念のカテゴリー化を活用し、カーブを支援する人々のつながりを通して概念「共同体」とその意味内容を捉える。</li> </ul>		
	二(8)	広島市民とカーブの関係	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>広島カーブができる頃の広島は、どんな様子だったのだろうか?</li> <li>原爆から5年後、広島を歩くと人々はどんな様子だったのだろうか?</li> <li>なぜ広島にプロ野球球団ができたのだろうか?</li> <li>なぜカーブは参加1年目に41勝96敗の最下位になったのだろうか?</li> <li>どのようにしてカーブは解散のピンチを切り抜けたのだろうか?</li> <li>借金のないカーブを、広島の人々はどのようにして支えたのだろうか?</li> <li>25年かけて初優勝、広島市民はどんな思いだったのだろうか?</li> <li>なぜ広島の人々は新球場のために、再梅募金をしたのだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料や映像を基に、原爆が投下された広島カーブができる前のまちの様子を捉え、他の爆弾と比較しながら原爆の恐ろしさについて理解することができる。</li> <li>原爆投下直後と5年後の広島を比較し、まちの様子や人々の生活について話し合い、当時の人々の心情について考えることができる。</li> <li>資料を通して、原爆投下による市民の心の支えとなるよう広島カーブが作られた点を捉え、食べ物ではなくあえて球団を創った理由について考えることができる。</li> <li>広島カーブは原爆投下後、資金のない市民球団として創設されたため、有望な選手を集めたり、物的支援が得たりすることができなかった点を理解できる。</li> <li>資料を基に、広島カーブが解散の危機を迎えながらも、カーブをわが子のように思い、梅募金などで支援する市民や、それに応えよう奮闘する選手との協力によって、危機を免れた点を理解することができる。</li> <li>資料を通して、広島の人々や企業が広島カーブを維持・存続させるために、外国人選手を集めるための寄付を行ったり、ナイター設備のある球場を建設したりした点を理解できる。</li> <li>写真を基に広島カーブの創設から初優勝までの出来事を振り返りながら、初優勝した時の市民の心情を自分なりに根拠を示しながら考えることができる。</li> <li>資料から平成の梅募金が行われた事実を捉え、昭和と平成の梅募金を比較しながら、新球場の建設を行った理由について考えることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元を貫く学習課題の予想について話し合う場を設ける。</li> <li>資料を基に、カーブが誕生したころの様子を話し合わせる。</li> <li>映像を基に原爆の特徴をとらえ他の爆弾と異なる点を確認する。</li> <li>原爆投下時の様子をとらえ、原爆の特徴をふりかえるよう促す。</li> <li>原爆の被害にあった人々の心情を話し合う場を設ける。</li> <li>原爆当時と5年後の町の様子の写真を比較しながら、当時の人々の生活について考えるよう促す。</li> <li>写真を基に、原爆投下5年後のまちや人々の様子を振り返る。</li> <li>創設趣意書を基にプロ野球球団が広島に作られた理由を想起する。</li> <li>当時の日本の状況や市民の生活・心情を踏まえながら、食べ物の配布ではなくプロ野球球団を創った理由について考えるよう促す。</li> <li>広島カーブはだれがいつどんな理由で創設したのか確認する。</li> <li>資料を基に、カーブが最下位になった点を確認する。</li> <li>カーブが最下位になった理由について話し合う場を設ける。</li> <li>映像を通して、カーブ球団や選手の実態、生活について確認する。</li> <li>1950年と1951年の勝敗表を提示し読み取れる情報を話し合う。</li> <li>1951年に試合数が少ない理由について考える場を設ける。</li> <li>資料を基にカーブが解散危機を迎え、乗り越えた事実を確認する。</li> <li>資料を基に、カーブが解散の危機を乗り越えた理由や当時の市民の心情について考えるよう促す。</li> <li>本時の課題に対する予想について考え、話し合うよう促す。</li> <li>1953年前後の選手オーダーの資料を提示し、気づきを話し合う。</li> <li>1957年前後の球場の写真を提示し、その変化について話し合う。</li> <li>外国人選手の獲得やナイター設備が完備された理由について考え、市民や地元企業が球団強化策として資金援助した点を確認する。</li> <li>資料を基に、創設から優勝まで25年間かかった点を確認する。</li> <li>写真を並び替え、写真の内容について振り返る場を設定する。</li> <li>カーブが優勝できた背景を考えながら、当時の人々の心情について考えるよう促す。</li> <li>平成の梅募金が行われた理由を予想し、話し合う場を設ける。</li> <li>2004年以降のカーブの勝敗表や入場者数の資料、球団再編の新聞記事を基にカーブの球団存続の危機が再燃した点を確認する。</li> <li>昭和と平成の梅募金の共通点、相違点を確認する。</li> <li>新球場建設の梅募金と球団の存続の関係性を考える場を設ける。</li> <li>カーブ創設から現在までの出来事を写真で振り返る場を設定する。</li> <li>単元を貫く学習課題を予想し、話し合いを通して再吟味するよう促す。</li> <li>梅募金を知らない子どもが応援する理由を考えるよう促す。</li> <li>カーブが創設され昭和の梅募金が行われた祖父母世代のカーブに対する心情について振り返り、家族の視点で課題追究するよう促す。</li> <li>概念のカテゴリー化を活用し、カーブを支援する人々のつながりを通して概念「共同体」とその意味内容を捉える。</li> </ul>	
	第二段階	三(5)	1	カーブでつながる家族と地域～共同体のあり方を問い直す～	<ul style="list-style-type: none"> <li>老若男女問わず広島市民がカーブを支援する理由について、これまでの学習内容を基に「共同体」の観点から考えることで、自らの所属する家族や地域といった身近な共同体が、人々のつながりによって形成・維持・発展していることを理解できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーブ創設から現在までの出来事を写真で振り返る場を設定する。</li> <li>単元を貫く学習課題を予想し、話し合いを通して再吟味するよう促す。</li> <li>梅募金を知らない子どもが応援する理由を考えるよう促す。</li> <li>カーブが創設され昭和の梅募金が行われた祖父母世代のカーブに対する心情について振り返り、家族の視点で課題追究するよう促す。</li> <li>概念のカテゴリー化を活用し、カーブを支援する人々のつながりを通して概念「共同体」とその意味内容を捉える。</li> </ul>	
				2	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ今共同体に問題が生じているのだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同体の課題として第二次世界大戦における国同士のつながりや断絶を事例に、世界平和という観点から共同体のあり方について考え、世界の国々が関係性を保つことの重要性を理解することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>共同体に問題が生じる理由を予想し話し合う場を設ける。</li> <li>米大統領の発言を基に世界の国々のつながりの希薄化を確認する。</li> <li>国同士のつながりの遮断がもたらす結果を想起し、第二次世界大戦時における世界の国々のつながりについて考える場を設ける。</li> <li>日独伊や米英ソのつながりを通して、共同体の課題を考える。</li> </ul>
		第三段階	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>家族や地域の共同体に生じる課題には何があり、どのようにしておきるのだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域や家庭の共同体における課題について、自分なりに想起したり、新聞記事から読み取ったしながら、人のつながりの観点から課題が生じる理由を説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国同士による共同体の課題についてふりかえる場を設ける。</li> <li>家族や地域の共同体におきる課題を想起し、話し合うよう促す。</li> <li>子どもが発言した事例を基に、図化して説明する。</li> <li>新聞記事を提示し、孤独死が生じる理由を共同体の観点から考え、話し合うことができるように場を設定する。</li> </ul>	
				4	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ子どものいない(少ない)家族がふえているのだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化の意味をとらえ、少子化が生じる背景を今日の家族構成と社会状況を関連させながら、共同体の観点から自分なりに説明することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化の意味をとらえ、課題について予想し話し合うよう促す。</li> <li>少子化が生じる理由を家族構成の観点からとらえられるよう促す。</li> <li>結婚していない家庭と結婚していない家族、子どもを産みたくない家族と産みたくても産めない家族に分けて考える。</li> <li>多様な家族構成が生じる要因を今日の社会の実態を踏まえながら、共同体の観点から追究したり、解決法を考えたりするよう促す。</li> </ul>
				5	<ul style="list-style-type: none"> <li>少子化で共同体がピンチ、一体どういこうなのだろうか?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を基に、共同体の観点から少子化の実態や課題をとらえ、その解決策についてこれまでの内容を踏まえながら自分なりに考え、社会形成における共同体概念の重要性について仲間と吟味・検討することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもを産まない家族、子どもを産めない家族が生じる背景を、共同体の観点から図を用いて振り返り、現在の社会の実態を確認する。</li> <li>資料を基に、家族一人当たりに産む人数を確認し、少子化がもたらす課題について予想し、話し合う場を設ける。</li> <li>学習内容を生かし、少子化の解決策を自分なりに考え、社会形成・維持における共同体概念の重要性について考える場を設定する。</li> </ul>



## 6. 授業実践における共同体概念の意味や価値に関する考察

### 6-1 共同体概念の獲得をめざす第2段階(第三次第1時)の児童の変容

表2を見ると、児童はカープの歴史的過程を踏まえ広島の人々が支援する理由を、原爆で傷ついた人々の慰安(C1)や解散危機を市民が支えた事実(C2)、広島の公共財としての価値(C3)から挙げている。だが、様々な世代の広島の人々が支援する理由としては断片的で人々のつながりは見出せていない。そこでC4の発言を契機に、カープを応援・支援する理由を児童・親・祖父母と世代ごと遡りながら問うことで、課題追究する視点を「家族」に焦点化させ、祖父母世代がカープを自分の「家族」のように支援した点に気づかせている(C8~12)。そしてこれまでの内容を、家族の枠組みを示す構造図を基に祖父世代→父母世代→子ども世代と順を追って確認することで、児童は家族のつながりから家族内での世代を超えたカープ支援の仕組みを理解している(C13~17)。

表2. 単元「カープは家族!？」第三次第1時の授業記録(抄録)

教師の発問・手立て	児童の発問・反応
T1 なぜ広島の人々は、子どもも、大人も、お年寄りも、カープを応援するのだろうか?これまでの学習を基に課題を予想し直しました。今日はその内容について話し合ひましょう。	C1 原爆で傷ついた人を元気づけてくれたから。 C2 市民が募金をして守ってきた球団だから。 C3 カープは広島の宝、大事な物だから。 C4 お年寄りは勇気づけられた。お父さんは新球場に有難うのきもち、子どもはカープが見れる喜びで。
T2 どうやって家族がファンになったの?君たちはどうして?	C5 お父さんがファンでテレビを見ていたら自分もファンになった。
T3 では、お父さんたちはどうしてカープファンになったの?〇〇くん。	C6 僕たちと同じようにお父さんのおじいちゃんがファンだったから。
T4 じゃあ、おじいちゃんは どうしてカープファンなの?	C7 おじいちゃんの世代からカープができて、応援しだしたから。
T5 カープは どうしてできたんだっけ?	C8 原爆があつて市民が悲しんでいたから、カープをつくって慰めた。
T6 元気になってほしかつたからって どういうこと?	C9 弱くてもみてるだけでうれしい。原爆で苦しい生活でも元気になる。
T7 カープって おじいちゃんたち世代にとって、どんな存在?	C10 有難い存在。生きる気力をくれたから。
T8 その当時の人たちって、カープのことを どう言っていたかな?	C11 カープは負けてもかわいい。カープは生きがい。
T9 見るだけでうれしい。生きがい。かわいい。カープはまるで…。	C12 家族!
T10 じゃあカープ、家族に入れてあげていい!? (図を書く)	C13 結婚する。子どもを産む:本当の家族をつくる。
T11 この後、若い頃のおじいちゃんはどうなる?そのままお年寄り?	C14 いや一緒に応援する。カープファンになる。
T12 じゃあ、もう家族のようなカープはいらない?	C15 また結婚してお嫁さんも子どももできる。お嫁さんもファンになる。
T13 お嫁さんも一緒に応援する。子どもも一緒に応援する。(図を書く)	C16 カープが大大大好きになる!
T14 その子どもであったお父さんは?どうなる?	C17 カープが本当の家族になっている。つながるとる。
T15 その子どもは…。〇〇くんはどう?	C18 △△ちゃん家の写真。家族みんなで球場でカープを見とる。
T16 カープを通じて家族がどうなっている?	C19 うちもうちも。
T17 これって、〇〇くん家だけ?これみて!	C20 カープ大家族になる。家族同士がカープを囲んでつながっている。
T18 これって△△ちゃん家だけ?(家族写真を提示)	C21 広島。広島大家族。広島カープ大家族になつとる。
T19 カープが好きな人がたくさんたくさん増えたらどうなっている?	C22 先生の教え子。
T20 そんな家族が多いのはどこ?(図を書く)	C23 東京の先輩ともつながるとる。
T21 カープで家族、広島の人々がつながってる。これって広島だけかぬ?	C24 あつ「カープは家族!」(新聞題に)カープは家族って書いてある。
T22 ちょっとこれ見て。だれ?	C25 見守りたい。育てたい。
T23 (記事を読む)首都圏の大学生、カープと広島の魅力を伝える小学校の頃カープの歴史を学び…広島出てもカープの魅力を伝えてるね。	C26 カープがかわいくて仕方ない。出来の悪い子ほどかわいい。
T24 当時の新聞がここにありますが(昔先輩たちが作った新聞を出す)。	C27 カープ女子の人も、カープを家族に思つとる。
T25 どうも、先輩とみんなと思いがつながってるね。(図を書く)	C28 黒田選手だ。
T26 でもこれって広島に関係ない人はどうなのかな?これ見て(映像)。	C29 大リーグなのにボランティアしに戻るのはすごい。家族のようだ。
T27 なんて言っていた?。	C30 広瀬選手。広島のために野球のボランティアしてつながっている。
T28 これってカープファンだけかな?(黒田選手の写真・記事)	C31 選手も広島を支える人、私たちと一緒に。
T29 黒田選手だけ?これみて!新聞記事。(廣瀬選手を伝える記事)	C32 平和の思いもつながるとる。
T30 この封筒だからかな?26番とは?(廣瀬選手の手紙を読む)	C33 世界にも!
T31 カープを通して人々がつながり、日本、世界まで。(図を書く)	C34 被災した人への思い。
T32 でもこういった家族や地域のつながりものって広島カープだけ?	C35 有難うっていう気持ちも。歌にもありがたうの輪ってあるよ。
T33 これって日本だけかな?(オバマ大統領の写真・絵を提示)	C36 気持ちだと思ふ。つながることが大事。
T34 他にもある?	C37 市民球場を作つた石広さん泣いとる。みんなが1つになつたつて。
T35 これは?(優勝パレードの写真)	C38 共同体!
T36 家族や地域をつくつたり続けていくためには何が大事かな?	C39 僕たち3年1組も。
T37 この映像みて。(石広さんの映像)なんでないとるん?	
T38 みんながつながりあい1つになる喜びね。家族・地域、そして日本・世界など人々が互いにつながりあう社会を「共同体」といいます。	
T39 身近にもあるよ?	

表 3. 第三次第 1 時終了後の抽出児童の振り返り記述

A 児	カーブは家族が原ばくでなくなってしまうても家族のようなそんざいで人々がつながり、共同体になり、がんばれる。日本中世界中みんながつくるのが社会なんだなあと思いました。
B 児	今日、カーブは〇〇！？がわかって、カーブは家族のように、つながっていることがわかって、カーブって家族みたいに共同体なんだということがわかりました。広島の人々はこういうつながりでカーブファンがいっぱいいることがわかりました。
C 児	わたしは、カーブが家族のように、みんなが思ってくれているから、カーブはずっと広島に、いつまでもあるのかなあと思いました。みんな、原爆の後はずらいのにおかねをだしてくれたから、カーブは広島県民以外の人々も「つながり」あえるんだと思います。

ここまでは、C6の家族の事例である。そこで、T17の類推を促す発問を行い、自分たち家族も同様だとする児童の発言を引き出している(C19)。その後、T19の発問によって、児童はカーブを支援するつながりを「家族」から「地域」に範疇を広げて捉えていることがわかる(C20・21)。

さらに、“これって広島だけか？(T21)”等の発問に加え、東京の教え子の記事やカーブ女子の映像、黒田選手の活動を示す資料などを示すことで、児童はカーブを支援するつながりや範疇を、「日本」「世界」にまで広げて捉えることができている(C23~31)。

最後に、一般化を図るT32の発問により、児童はカーブに限らず、平和への思いや被災した人への思いなどに適用して考えることもできている(C32~35)。この時児童は、共同体を持続する上でのつながりだけでなく思いの必要性も述べており、共同体の意味内容はもちろん、コミュニティの形成条件であるコミュニティ感情も捉えることができた(C36)。最終的に共同体という概念を教師から適用することで、児童は自分たちのクラスも互いにつながりあう共同体だと気づくことができた(C39)。このように、児童はカーブでつながる市民の様子から共同体概念を捉え、様々な範疇の社会を構成する上で重要な概念だと認識できている。これは表3の抽出児童の振り返り記述からもわかる。またC児は「みんながつくるのが社会」と述べ、共同体の一員としての意識も窺える。

## 6-2 概念を活用し社会問題から関係価値に迫る第3段階の児童の変容

### (1) 世界の社会問題として「戦争」に着目した第三次第2時の場合

表4を見ると、児童は自分たちが考える共同体の課題を挙げた後、T3の発問を契機に「戦争」に着目し、共同体のつながりの視点からその要因を検討している。太平洋戦争開戦の記事から、児童は日本がアメリカ、イギリス、中国と交戦したことを捉え、世界の共同体の崩壊を想起している(C5~7)。さらに、資料や補足説明から広島原爆投下との関連や二度の世界大戦があった事実を捉え、交戦国の関係図を通してつながりが1つ切れることで共同体全体に影響が及ぶ点に気づいている(C13・14)。また大戦時のドイツのユダヤ人虐殺から、ドイツの人々がユダヤ人虐殺という考え方でつながっていることを捉え、「共同体において悪いつながりもある」ことを認識している(C17・18)。さらに、ドイツがアメリカとイギリスとも交戦した点や、共通の敵をもつ日本とドイツ、アメリカとイギリスのつながりを捉えることで、「一部の国同士がつながり、グループ化することの問題点」、「戦争による家族の共同体にまで及ぼす影響」も感じることができている(C19~30)。児童は、「戦争」という過去の社会問題を通して、つながりの観点で要因を探究し自らの認識を開くことで、共同体概念の意味や重要性を捉え直し、獲得した「共同体」の意味内容を深化・改訂することができたと言えよう。実際に、表5の授業終了後における抽出児童の記述内容を見ても、D児は世界平和における切れた共同体を結びつける重要性を、E児は身近な生活だけでなく様々な範疇でのつながりの必要性を、F児は身近な家族を大事にするつながりから世界平和の実現にもつながる点を示していることから窺える。

表4. 単元「カープは家族!？」第三次第2時の授業記録（抄録）

教師の発問・手立て	児童の発問・反応
<p>T1 前回共同体がピンチっていったけど、どんなこと？話し合ってみて。</p> <p>T2 アメリカの大統領は選挙で決めます。決まったのになぜ反対するの？</p> <p>T3 メキシコに壁をつくってないけどその発言で共同体が切れるって話だね。でも昔本当に切れたことがあるよ(太平洋戦争開戦の記事提示)。</p> <p>T4 この時、上海にいるイギリスの戦艦も攻撃したって書いてる。そうすると日本とイギリスの関係はどうなる？。</p> <p>T5 こういうことがあったんです。資料集の年表1941年を見てください。</p> <p>T6 太平洋戦争をもう少し大きく捉えると第二次世界大戦。1945年に戦争はおわるけど世界をまたにかけどどこが大戦争を起こしたの？</p> <p>T7 ということは、日本はこの戦争でアメリカだけでなく、中国ともイギリスとも戦争をしていたってことになるね。第二次ってことは？</p> <p>T8 (構造図にまとめる) これどう、みんな。</p> <p>T9 これ見ると日本対米、英、中だけぞそれだけ？(ナチスの旗の資料)</p> <p>T10 その民族の一人がこの人です。(アンネの日記)</p> <p>T11 ドイツではユダヤの人がドイツで沢山仕事をしていて、仕事をとられ国が滅ぼされると思い、ユダヤ人をやっつけろって思ったんです。</p> <p>T12 ちょっと見て、ドイツはアメリカとイギリスと戦っていました。日本はアメリカとイギリスと敵。</p> <p>T13 敵の敵は味方となって、アメリカとイギリスがつながり、日本とドイツがつながって戦争する。これっていいの？</p> <p>T14 実際にこういうことが起こって、日本はドイツだけでなくイタリアとつながり、日独伊三国同盟を結びます。また6年生で勉強します。アメリカ、イギリス、中国は連合国というグループで戦いました。</p> <p>T15 日本はどうかね？日本の新聞に100人切り競争、どういうこと。</p> <p>T16 そのころの国語の小学1年の教科書(教科書の画像を提示)。</p> <p>T17 ヘイタイさんの事悪く思っている？これを学校で教えてました。</p> <p>T18 みんなこの頃、戦争やろう！という思いになっていた。「電力は戦力」「進め一億火の玉だ」「欲しがりません勝つまでは」戦争のために。</p> <p>T19 共同体のピンチって国や世界だけか？他にはどこがある？</p>	<p>C1 トランプさんがメキシコに壁をつくって言っている。</p> <p>C2 アメリカではクリントン氏を選んだ人とトランプ氏を選んだ人がいてデモをしあって、アメリカがバラバラになっています。</p> <p>C3 世界の共同体が崩れてしまうと思うからです。</p> <p>C4 この人の言葉がひどすぎる。</p> <p>C5 ハワイで空襲！上海も攻撃！</p> <p>C6 ってことは太平洋戦争？でも上海って中国との戦争？</p> <p>C7 共同体がこわれる。世界の共同体が壊れる。</p> <p>C8 広島に原爆が落とされる4年前。太平洋戦争が起こった。</p> <p>C9 日本とアメリカが太平洋で戦争した。</p> <p>C10 さっき上海でイギリスと日本が戦ったってあった。</p> <p>C11 日中戦争をしているって書いてある。</p> <p>C12 この前にも、第一次世界大戦をしていると思います。</p> <p>C13 1つのけんかが世界にぶあつて広がって、悪いと思います。</p> <p>C14 普通の喧嘩でもあるけど、けんかはやりかえすので広がる。</p> <p>C15 ナチスドイツの旗。ヒトラー。どっかの民族を虐殺した国。</p> <p>C16 アンネの日記だ。知ってる見たことある。</p> <p>C17 みんながつながってしまった。悪い共同体になってしまいます。</p> <p>C18 つながっても大変。</p> <p>C19 誰かを倒すためにつながったり、どこかの国を倒すためにつながったりしても大変。全部が戦ってる。戦争を激しくしている。</p> <p>C20 アメリカとイギリスは日本と戦争して同じ思いでつながった。</p> <p>C21 アメリカとイギリスがつながってるから、その敵である日本とドイツが組んで、2対2で戦う。</p> <p>C22 よくない。悪いと思う。</p> <p>C23 共同体がこわれます。</p> <p>C24 連合国って聞いたことがある。</p> <p>C25 悪いつながりも問題がある。</p> <p>C26 どっちが早くたくさん切れるか競ってた。いけないつながり。</p> <p>C27 ススメ、ススメ、ヘイタイ、ススメ</p> <p>C28 いいえ。学校の先生がそう思っていない。</p> <p>C29 戦争はいいことだと日本の人に思わせてやっつけさせている。</p> <p>C30 みんなが苦しんでいるけど、欲しがらないと1つに…。</p> <p>C31 地域や家族もある。</p>

表5. 第三次第2時終了後の抽出児童の振り返り記述

D 児	<p>共同体をこれからもつづけていくためには、世界中がなかなかおりをして、そして切れた共同体の線を結びつけるんだと思います。共同体の線を1つきると世界が大変なことになるので、もうこのようなことはしてほしくないです。</p>
E 児	<p>今日の学習で共同体をこわさないためには、まずどんなにちいさなけんかでもおこさないことと、自分かっとなこうどうをとらないことです。理由はいくらちいさなけんかでも、一人一人つながっているから、それがほんのちょっとでもきれたりしないことです。それは世界や国であらわしても同じです。1つの国が自分かっとなことを言って、世界がせんそうをはじめても、世界の共同体がきれてしまうもしくはわるいほうでつながってしまうからです。</p>
F 児	<p>わたしは、せんそうをやるのはよくないと思うし、せんそうをつづけていったら、世界との共同体やつながりがなくなってしまう。「つながり」はいいけれど、いいつながりとわるいつながりがあるといます。わるいつながりはせんそうなどをきずつけたりすることだと思います。いいつながりは、世界が平和の方がいい人がふえたり、家族を大切に思いたいという「つながり」がふえたら、けんかもあまりせずに、いつまでも平和でいられるけれど、わるいつながりは人がけがをしたら、心がきずつくことがあるので、いつまでもいいつながりがあると、人もきずつかずすみやすくけんかもしないへいわな世の中ができるわたしは、おもいました。</p>

## (2) 家族・地域の社会問題として「孤独死」に着目した第三次第3時の場合

表6を見ると、児童は身近な共同体に生じる課題について、人々がテレビやゲーム、スマホなどに夢中になり、地域の公共物を壊したり家族の会話が減ったりすることを挙げ、「地域」や「家族」のつながりが希薄になっている点に気づいている(C3~9)。また、新聞記事を契機に「孤独死」について話

表 6. 単元「カーブは家族!？」第三次第 3 時の授業記録（抄録）

教師の発問・手立て	児童の発問・反応
<p>T1 昨日は世界の共同体のピンチについてやったね。 T2 切れてもいけないし、悪いつながりもいけないし、一部だけがつながっててもいけないからね。国のピンチ以外にもあるってことだったけど。 T3 どんなピンチがあるか近くで話し合ってみて。</p>	<p>C1 太平洋戦争、第二次世界大戦。悪いつながりがあってもいけないし、国と国の一つだけがつながっていてもいけない。 C2 地域とか、家族とか…。 C3 最近ポケモンゴーで衝突事故がおきたり、お年寄りや小学生がぶつかってけがさせてしまった。姫路城にドローンがおちてこわれた。</p>
<p>T4 地域の人々のつながりが切れたり、地域で大事なものを壊してしてしまう。地域がくずれてしまうってこともあるよね。だいふ地域の話でまづいことがでてきたね。これ(家族の絵を提示)は？</p>	<p>C4 ポケモンゴーもつながるけど、最近テレビとか見ていたりして、家族が話せなくなって家族のつながりがきれる。 C5 家族でお父さんがゲームを買って、子どもがゲームに夢中になって、やるっていう人がいる。僕はこれも共同体がピンチになると思う。</p>
<p>T5 そういえば外食する時によくみるよ。ゲームする子とか？</p>	<p>C6 大人も注文して待っているとき、携帯を触って待っている。 C7 話したいことがあっても、スマホを触っててできない。</p>
<p>T6 子どもはゲームしたい、大人は携帯したい、これどうなると？</p>	<p>C8 みんながばらばら C9 家族は崩れる。共同体は崩れる。</p>
<p>T7 これだけでない今日はみんなに考えてほしいこと…これです。(絵を提示)</p>	<p>C10 おじいちゃんが寝ている。 C11 違います。</p>
<p>T8 お酒に酔って寝てるんか？</p>	<p>C12 家族が遠い所に住んでいてあんまり会えないから。 C13 ちょっとつらいのに無理をして元気だやってしまったから。</p>
<p>T9 こんな記事があります。(新聞提示) 孤独死って聞いたことない？お年寄りが一人暮らしで亡くなり 1年8か月後みつかると。なぜ起こるの？</p>	<p>C14 仕事があつたりして、会わないうちに亡くなってる。 C15 家族には仕事があるし、幼稚園の送り迎えもあるし。</p>
<p>T10 それは家族と別れて住んでいるってこと？</p>	<p>C16 家事もある。子どもを預けている人もいる。 C17 一緒に住んでいることで仕事のストレスがある上に面倒がある。</p>
<p>T11 家族には仕事がある。</p>	<p>C18 一緒に住んでいても、受験とかで一緒に孫と遊べなかったり、仕事と一緒に食べられずにコンビニなんかで食べたりすることもある。 C19 うん。</p>
<p>T12 一緒に住んでいてもお年寄りにかまってくれない。学校あるし、おじいちゃんが住んでいる所に会社があるとも限らない。仕方ない？</p>	<p>C20 僕のおじいちゃんお近くに住んでいるんですけど、何回もいくので家族のつながりから抜け出したりはしていません。 C21 ぼくもちも呉に住んでいるんですけど、用事がない時はいつもおじいちゃんおばあちゃんにいたり電話したりしている。</p>
<p>T13 ちょっと気になることがあるんだけど。みんなが言っているのはこっち(家族)よね？家族としてのつながりが切れているっていうよりも？</p>	<p>C22 夏休みや冬休み、正月などに行くので、1年以上たないのも大丈夫。 C23 私たちは家族と一緒に住んでいるから大丈夫だけど、一人だと寂しいし、体調が悪くなったら自分で病院に行かないといけないから大変。</p>
<p>T14 離れて暮らしていても、何度も電話したり行き来してあげれば、大丈夫？遠くに住んでいる人はどうだろうか？</p>	<p>C24 前までは、親戚と住んでいたのですが、一人暮らしでさみしいからペットを飼っています。 C25 昔は三人で住んでいたが、今はお年寄りが一緒に暮らす場所に来ます。 C26 (黙って悩む)</p>
<p>T15 もしそうなたらどうするん。すぐに行ける？大変なことになってしまう可能性もあるのでは？一人暮らしの人もあるでしょう。</p>	<p>C27 ああ！一人だったけど、地域の一人としてつながっている。 C28 ああ！そうか。それなら大丈夫。</p>
<p>T16 ペットを飼うことで心のさみしさを埋めている。病気の場合は？</p>	<p>C29 おばあちゃんの家族のつながりがばかりに集中しててわからなかった。 C30 共同体がぜんぜんつながってなかったら、たぶん心配しにこない。 C31 たしかに。切れてしまうかも。</p>
<p>T17 老人ホームね。それができない人は？</p>	
<p>T18 他にもないか？。(地域のつながりの輪の中にお年よを入れる図)</p>	
<p>T19 近所の人がおばあちゃん大丈夫ですかって言う関係があれは？</p>	
<p>T20 みんななかなか気づかなかつたけど、どうして？</p>	
<p>T21 近所の人にあつたら挨拶してる？隣の人が誰かわからなかったり、関わろうとしなかったり、家族だけでなく地域のつながりも…。</p>	

表 7. 第三次第 3 時終了後の抽出児童の振り返り記述

G 児	<p>ぼくのとりのおばあちゃんは犬を飼っていたけどおなくなりになって、とりのおばあちゃんはあまりあいさつをしなくなり、あまりそとでなくなったので、よくおはなしをしにいったことがあります。これは3年前で今日の授業をきいて思い出しました。いまでは元気にさんぽをしたりしています。</p>
H 児	<p>わたしのおばあちゃん（ひいおばあちゃん）は家がはなれているので、1年に2～3回ぐらいしか会えませんでした。ある日、お母さんがひいおばあちゃんの家でなくなったということをきいてびっくりしました。おばあちゃんは近所のひとなどとながよかったので、なくなったことは近所の人すぐに気づいてくれました。でも近所の人とながよくできなかつたら、気づいてくれる人が少ないので、何年もたつてしまいます。みんなのつごうがあるので、わたしは電話で会話をしたりすると遠くにいてもつながりあえるので、毎日話をしたらいいとおもいます。</p>
I 児	<p>ぼくはあいさつをしにいったきんじょの人たちとながよくなって、知らなかった人とふれあえるようにできるようにしたほうがいいとおもいます。そして、地域の人たちのふれあいを家族につなげればいいと思います。</p>

し合い、自分たちの家族構成や家族状況を想起しながら、仕事や子育て、受験など様々な都合によってお年寄りと離れて暮らす状況を要因とした（C12～18）。しかし児童の大半は祖父母と離れて暮らすため、「休みに訪ねたり電話をしたりするので大丈夫」とする発言に終始している（C20～22）。これは、

児童が離れて暮らしても家族だと、祖父母を同じ「家族」の枠組みで捉えているからである。だが、この時点では「地域」の観点に気づけていない。そこで、C23の発言を基に急な病気などへの対応を問うと、児童はその難しさに気づき思考が揺さぶられている(C26)。その後、板書でお年寄りの絵を地域の輪で囲んでいくことで、地域のつながりに気づくことができた(C27)。

最終的に、T19の問いかけや説明を通して、児童は「家族」でなくても「地域」のつながりで支えることができる点や、共同体の必要性に改めて気づくことができていく(C28~31)。授業では、想定以上に地域の観点で「孤独死」を捉えることが難しかった。

しかし、表7を見る限り、G児やH児は自らの経験を振り返り、孤独死の問題を自分事として捉え、地域がつながる重要性に気づいたり、I児は孤独死をなくす上で家族のようなつながりを地域にもつくる必要性について言及したりできている。

### (3)日本の社会状況(問題)として少子化に着目した第三次第4・5時の場合

本実践は、進度の関係で単元指導計画の第4時の内容を2時間行った。その結果、第三次第5時を含め3時間分となる。本稿では、紙幅の関係で最終時の第5時を中心に述べる。

ちなみに第4時では、本時の学習課題である「なぜ子どものいない家族、少ない家族が増えているのだろうか?」について話し合ったが、対象となる家族が単身世帯と夫婦二人家族となるため、意見が錯綜し時間を費やす結果となった。そこで論点を整理し、夫婦二人家族の立場から考えることにした。児童は出産や子育ての大変さ、夫婦共働きの場合のすれ違い、養育費などの負担を理由として挙げた。次に、保育園に預けられない人もいる現状から子どもを預ける方法を話し合った。既習内容を生かし親戚や近所などを挙げながら、共同体の現状や課題、意義を再確認している。また生活の楽しみ方に着目して考えることで、情報化による人とのつながりや家族機能の外部化など社会生活の利便性を捉えるとともに、簡単につながり簡単に切れる人とのつながりの脆弱性にも気づくことができた。

第5時では、表8を見ると、1.25の出生率の意味や将来の日本の人口などから、少子化や人口減少、経済的な影響を捉え、子どもが少ない要因や解決方法について夫婦間の家事・仕事の役割分担や生活費などの観点から話し合っている(C15~22)。その後、現代社会の状況を踏まえ、C23の企業内に子どもを預ける場を設けるという提案に対し、児童は会社の立場も踏まえそれが可能か検討を行っている(C24・25)。さらに、C26の強制的に結婚させるという意見を取り上げ、その是非について検討を行っている(C29~30)。ここでの話し合いを通して、児童は共同体のために少子化を食い止める必要性は大事であるものの、そのために共同体を構成する人々の自由を奪うことはできない点に気づいている(C30)。

表9の振り返り記述を見ても、児童は少子化について共同体の一員として、「共同体を持続するための公共的な集団の観点」と「共同体を構成する権利的な個の観点」の両方から検討する必要性を認識するとともに、それを実現する難しさも感じていることがわかる。

全体を通して、児童は獲得した共同体概念を活用し、つながりの観点から様々な社会問題の要因や解決方法を児童なりに考え、社会における共同体概念の意味や価値について捉えることができたと言える。最後の少子化は、共同体のつながりに焦点を当て検討したが、戦争や孤独死のような考えまでには至っていない。

しかし、これまでの学びで獲得した共同体概念やつながりに関する認識を基に、小学3年生の児童がクラスという共同体のつながりを通して少子化について果敢に挑み悩んでいる様子こそ、共同体の主権者・社会形成者の一員として意識しながら取り組み、主権者の基盤を育てている姿と言えるのではないか(C32~35)。

表 8. 単元「カーブは家族!？」第三次第 5 時の授業記録（抄録）

教師の発問・手立て	児童の発問・反応
<p>T1 子どもを産まない人も産みたくない人もいたよね。昔と比べ他の人とつながりやすい家のことも外で全部できる便利な世の中、どう？</p> <p>T2 便利な世の中。それだけではない。産みたいけど産めない人もいた。預けたくても預けれない。保育園も難しく他人に預けようとしても。</p> <p>T3 しながらって難しいよ。こんな新聞記事を見つけました。(新聞提示)</p> <p>T4 日本の政府が少子化が進む理由。それは非婚化。男性2割女性1割。晩婚化も。でも産まない産めない実態があります。これ地域や家族の問題としたけど、日本の問題でもあるんですね。(資料提示)</p> <p>T5 何が1.25ってことかわかる？</p> <p>T6 世の中では家族に一人。でも子どもいるからいい？</p> <p>T7 日本っていう共同体がピンチ？家族、地域のことなのに？なぜ？(人口変遷グラフ) このままでは大人になる頃、人口8千人だそうです。</p> <p>T8 今日はみんなでこの大問題について考えていきます？少子化で日本ピンチ、一体どうすればよいのでしょうか。考えてみてください。</p> <p>T9 つまり、どうすればいいかを具体的にききましょう。</p> <p>T10 ○○さんの意見(どちらかが働いてどちらかが家にいる方法)をみんなはどう思う？</p> <p>T11 一人5万、一人5万、結婚します。一緒になれば10万です。でも子どもが生まれるとどうなる？一方がやめる。自分たちの生活に子どもの生活が加わると三人分を養うことになるよ。大丈夫？</p> <p>T12 全員がそういう会社にいけるとは限らないかも。さっき、子どもを預けられる会社っていったけど。どう？会社の中にそれをつくる。</p> <p>T13 他にはない？□□さんの意見を聞こう。</p> <p>T14 しないといけませんという法律を作るってどう？中国の一人っ子政策みたいに国がきめるのは？</p> <p>T15 でも昔はそうばかりではなかった。おうち同士できめていたこともあるんだよ。例えば真田丸見て？両親が決めてるよ。それってどう？共同体がピンチだといって、私たちの自由を奪うのどう？</p> <p>T16 みんなは共同体の一員？家族の一員？広島の一員？日本の一員？</p> <p>T17 どうも私たちは共同体の一員として社会のことを考えることもいるし、でもその一人としての自分のことを考えることも大事。みんなのことと自分のこと、あなたはどうか考える？</p> <p>T18 最後に様々な共同体の一員としてあなたはどうかすればいいですか？</p>	<p>C1 年を取って、働かなくなるし、お金がなくなったらできなくなる。</p> <p>C2 直接会える方が早い時もあるし、全部便利とは限らない。</p> <p>C3 仕事辞めるしかありません。でもお金がなくなる。</p> <p>C4 仕事辞めたらお金が。仕事しながら子どもを育てないといけません。</p> <p>C5 少子化白書。</p> <p>C6 えっ。</p> <p>C7 1.25？</p> <p>C8 少ない！日本を支える人がいなくなる。</p> <p>C9 一人が産む子どもの数です。</p> <p>C10 生まれた子どもは一人っ子だから、遊ぶ兄弟がいなくてさみしい。</p> <p>C11 両親が働いていたら、かまってもらえなかったり、一人っ子だったらいろいろ宿題とか一人でしないと いけない。</p> <p>C12 えっ、日本の人口1億人下回る？</p> <p>C13 きびしい。</p> <p>C14 私は子どもを一人にせず一緒にいた方がいい。今は悪い人もいて誘拐して殺してしまうので、一億人より減ってしまうからです。</p> <p>C15 どちらかが働いて、どっちかと家で一緒にいれればいいと思います。</p> <p>C16 でも(働いているとしたら)休みがあわなければどうするのですか？</p> <p>C17 事件は珍しいことなので預けることもできると思います。</p> <p>C18 僕の家は昔は家にいたんだけど、今は3時ころまで働いています。小さいうちだけ、子どもといれればいいと思います。</p> <p>C19 でも、子ども一人でいるのは危ないと思います。</p> <p>C20 僕もお留守番してるんだけど、そんなことはないと思います。</p> <p>C21 どちらかが働いていけば、お金がもらえるしやりくりできる。</p> <p>C22 今はいいけど。お父さんが遠いところに行ったら、お母さんも働かないといけません。そうなると大変になるのでは。</p> <p>C23 私は子どもを預けられる会社をつくれればいいと思います。</p> <p>C24 そういう会社を作るだけでも大変だよ！</p> <p>C25 やっぱそれをつくるにも、店の部分がへるしお金もかかる。</p> <p>C26 強制的に結婚させるしかない。</p> <p>C27 でも男と女を結婚させるだけでは、愛し合っていないから、子どもはできないと思います。</p> <p>C28 えっよくないけど。</p> <p>C29 でも子どもは産まないといけませんし。</p> <p>C30 強制的に結婚して愛し合うこともできるけど、強制的に結婚しなさいというのは選べられないのでやはりだめだと思う。</p> <p>C31 はい！ はい！ はい！ はい！</p> <p>C32 いっしょにするのはなかなかむずかしい。</p> <p>C33 うう～んううん。</p> <p>C34 どっちも考えるのは大事だけど、むずい！</p> <p>C35 どうすればいいじゃろ。頭いたい。</p>

表 9. 第三次第 5 時終了後の抽出児童の振り返り記述

J 児	みんながなっとくしてけっこうしたり、子どもをうんだりしたらいいと思います。理由は、なっとくしないとわるい共同体やつながりがきれたりしてしまうから。でも子どもは生まれないと少子化になってしまうから、なっとくする人は子どもをうめば大丈夫だと思う。
K 児	自分のことと、集団のことを半分半分でやっていたらいいとおもいます。理由はせきにと自由はどちらも大切だから、共同体がきれいなように、大変だと思うけどどちらも半分半分でやっていたらいいと思ったからです。
L 児	もし自分が社員になったら、社長などに、仕事をしながら子どものめんどうを見る人をやとってくださいといって、そういうことをどんなふうやしてって、みんなが住みよい、国づくりをしていきたいです。
M 児	私は自分のことも考えながら、みんなのことも考えて生活すればいいと思います。理由は、自分のことだけを考えていたら、共同体がつながらないし、みんなのことばかり考えていたら、自由もないし、みんなが協力し合ったらこそ、共同体だと思います。まずは近所から、つながりあっていくといいと思います。
N 児	みんなのために、子どもを2～3人うんで、地域の人たちがきづかっていったら、つながりあえるし、お母さんも、お父さんも一生けんめい仕事もできるので、みんなで協力して近所の人や地域の人や、ボランティアなどが、協力したら、大人(お父さん、お母さん)の人たちもよるこぶので、その子どもが大きくなったら、次は自分が協力など、どんどんつながって、協力し合ったら、せきにと自由をとれるので、こうすればいいと思います。

## 7. おわりに

本稿は、主権者教育の基盤として、社会構造の基盤となる共同体概念の意味や価値を認識する小学校社会科授業の有効性について論じた。理由は以下の2点である。

第1に、人のつながりに着目して社会問題を捉える見方・考え方、様々な共同体の一員としての自覚や認識を、児童に育む必要性である。

社会のグローバル化の影響によって、国だけでなく、地域や家族といった様々な共同体で人々のつながりが変わり、共同体の存続に関わる様々な問題が生じている。これは、私たちが主権者として人々との協議を基に共同体の意思決定を行う上で、民主主義社会の根幹に関わる問題であった。それ故、主権者であり未来社会の形成者である児童にとって、共同体概念の獲得や社会問題への活用を通して人々がつながる意味や価値を捉え、様々な共同体を構成する一員としての意識や自覚を育むことが必要であった。また、情報化やグローバル化によって容易に人と人が接続・切断できる世の中だからこそ、共同体を構成する人のつながり方やつながる負の要素も、社会問題を通して認識しておく必要があった。

第2に、人のつながりの意味や価値を含み込む共同体概念を通して、「戦争」「孤独死」「少子化」といった様々な範疇の社会問題に迫る授業の開発・実践による実証性である。

主権者教育の基盤として児童が人のつながる意味や価値を捉える上で、教育内容として共同体概念や関係価値を設定した。また、教育方法として社会科教育研究の成果として概念カテゴリー化学習の学習方法理論を活用した学習過程を構築し、単元「カープは家族!？」を開発・実践した。授業記録・児童の記述内容の分析の結果、共同体概念の習得や社会問題への活用を通して、共同体における人々のつながりやつながり方による影響などを捉え、主権者・社会形成者の一員としての意識や認識を広げ深める児童の姿を明示できた。

本稿では、第3学年を対象としたため、共同体概念の少子化への活用に関しては限界があった。今回学習材として「広島カープ」を設定したが、広島の児童には有効であるものの、汎用性の観点で課題が残る。また、学習対象の発達段階やカリキュラム、社会の状況を踏まえ、「共同体」概念を選定し行ったが、人のつながりに関する概念は共同体以外にも存在する。今後は、共同体以外の概念でも「人のつながり」を学ぶ授業を開発・実践し、本研究との比較・分析を行うとともに、共同体概念の獲得に有効な汎用性のある学習材、追究する社会問題と学年との関連なども再検討し、主権者教育の基盤として共同体概念を学ぶ授業の有効性を高めていきたい。

## 註

1) 家族のつながりや機能、個人化などの社会問題について以下を参照。

- ・加藤彰彦「未婚化を押し進めてきた2つの力ー経済成長の低下と個人主義のイデオロギー」厚生省人口問題研究所編『人口問題研究』第67巻第2号, 2011, pp. 3-39.
- ・釜野さおり「既婚女性の定義する『家族』ー何があり、なにがなされ、だれが含まれるのかー」厚生省人口問題研究所編『人口問題研究』第67巻第1号, 2011, pp. 59-87.

2) 内山節『主権はどこにあるかー変革の時代と「我らが世界」の共創』農文協, 2014, p. 12.

3) 内山節, 前掲書, 2014, pp. 18-24.

4) 土肥大次郎「市民的資質育成にもとづく社会問題学習の検討ー近年の多様な社会問題学習の特質と新たな授業の開発ー」社会系教科教育学会編『社会系教科教育学研究』第29号, 2017, pp. 11-20. 社会問題学習論の類型や特性, めざす市民的資質はここを参照。

- 5) 社会問題学習や主権者教育に関連する小学校社会科授業や学習論の研究として例えば以下がある。
- ・岡田泰孝「『政治的リテラシー』を涵養する小学校社会科学習のあり方ー時事的な問題を『判断の規準』に基づいて論争するー」日本社会科教育学会編『社会科教育研究』No. 129、2016、pp. 14-27.
  - ・松浦雄典「社会科における批判的参加学習としての授業構成ー小学校第4学年『安全なくらしを守る人たち』を例にー」全国社会科教育学会編『社会科研究』第79巻、2013、pp. 37-48.
- 6) 土肥大次郎, 前掲論文, 2017, p. 13.
- 7) 総務省と文科省の検討会がまとめた主権者教育の定義における捉え方の違いが、以下に示されている。
- ・水山光春・東瀬里穂・小山歩・曾我将司・深蔵心理・三品知恵「小学校社会科が担う主権者教育」『京都教育大学教育実践研究紀要』第18号、2018、pp. 203-204.
- 8) 水山光春・東瀬里穂・小山歩・曾我将司・深蔵心理・三品知恵, 前掲論文, 2018, pp. 210-211.  
水山らの見解はここを参照。
- 9) 唐木清志「社会科における主権者教育ー政策に関する学習をどう構想するかー」日本教育学会編『教育学研究』第84巻第2号、2017、pp. 155-167. 唐木の主張はここを参照。
- 10) 菊池八穂子「主権者としての初等社会科授業開発ー第3学年『金沢市の様子』を事例にー」『名古屋学院大学論集』社会科学篇、第55巻第1号、2018、pp. 131-145.
- 11) 共同体は元来、家族や村落などの地域レベルの閉鎖的な社会関係を示す概念であったが、近年はグローバル化などによってそれを超えた国際的な連携・つながりも含め広範的な捉えもされる。それは、国際社会での地域主義における共同体としてだけでなく、世界レベルの共同体についても、以下の論文・書籍で論じられるようになった。
- ・大庭弘継「『存在可能』な主体ー『国際共同体』の“存在”を巡る試論ー」南山大学社会倫理研究所編『社会と論理』第29号、2014、pp. 91-104.
  - ・松隈潤『地球共同体の国際法』国際書院、2018.
- 12) 社会学における共同体（コミュニティ）については以下が詳しい。コミュニティの説明については杉原の見解に依拠する。
- ・高橋道子「市民社会のコミュニティ・アソシエーション・コミュニケーションに関してのー考察ー理念型『町内会』モデルで読み解く市民的公共性ー」『国際広報メディア・刊行学ジャーナル』No.6、2008、pp. 113-134.
  - ・R. M. マッキーヴァー著、中久郎・松本通晴訳『コミュニティー社会学的研究：社会生活の性質と基本法則に関する一試論ー』ミネルヴァ書房、2009.
  - ・杉原学「コミュニティにおける『関心』と『時間』についての考察」立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科編『21世紀社会デザイン研究』No.11、2011、pp. 97-106.
- 13) 杉原学, 前掲論文, 2011, pp. 99.
- 14) 阿部健一「地産地消から知産知消へーつながりという『関係価値』ー」窪田順平編『モノの越境と地球環境問題』昭和堂、2009、pp. 180-211.
- 生産者と消費者の関係から関係価値を捉え、グローバルな環境問題に迫る社会科授業として次がある。
- ・新谷和幸・中丸敏至・伊藤公一・服部太・沖西啓子・木村博一・永田忠道「グローバル化する環境問題に焦点を当てた『グローバル社会学習』の研究ー附属小学校3校の連携を生かしてー」『広島大学学部・附属学校共同研究機構研究紀要』第43号、2016、pp. 159-168.



- 15) 阿部健一「価値を問う－『関係価値』試論」立本成文編『人間科学としての地球環境学』京都通信社, 2013, pp. 52-88.
- 16) 概念探究過程・価値分析過程は以下が詳しい。
- ・岩田一彦『小学校社会科の授業設計』東京書籍, 1991.
  - ・岩田一彦『小学校社会科の授業分析』東京書籍, 1993.
  - ・岩田一彦『社会科授業研究の理論』明治図書, 1994.
- 17) 新谷和幸「小学校社会科における『概念カテゴリー化学習』の授業構成－概念の名辞とカテゴリー化の手法に着目して－」全国社会科教育学会編『社会科研究』第80号, 2014, pp. 57-68. 図2は, p. 62. から抜粋。
- 18) 学習材「広島カープ」に関する内容については, 例えば以下のものが詳しい。
- ・関三穂編『燃える赤ヘル軍団広島カープ球団史』恒文社, 1979.
  - ・中国新聞社編『カープ50年－夢を追って－』中国新聞社, 1999.
- 19) 石坂圭三・間野義之「プロスポーツチームの地域における経済的価値評価」スポーツ産業学会編『スポーツ産業学研究』第20巻, 第2号, 2010, pp. 159-171. これ以外にも「野球協約」では球団を文化的公共財と明記している。
- 20) 新谷和幸, 前掲論文, 2014, p. 63.
- 21) 田村明『まちづくりの実践』岩波新書, 1999. 公共財を守る仕組みは, まちづくりの理論を基に構築。
- 22) 本単元の授業は, 教育目標と授業理論にこだわる社会科授業の事例の1つとしてその内容の一部が掲載されている。ここでは「概念カテゴリー化学習」の観点による授業づくりとして示される。
- ・新谷和幸「『概念カテゴリー化学習』にこだわる社会科授業づくり－小学校第3学年単元『カープは家族!?!』」木村博一編著『「わかる」社会科授業をどう創るか－個性ある授業デザイナー－』明治図書, 2019, pp. 122-129.
- 23) 本実践は2016年11月～12月, 広島大学附属東雲小学校第3学年1組30名に行った。